

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 6年 5月11日
(132号)

中之島ニュース

[事務局] 〒567-0861
茨木市東奈良2-7-10
人間学塾・中之島
事務局 古田修平
編集 西村俊幸

「いのちの声に聴く」
岩田 洋治 先生
(四月度特別講義①より)



■いのちが何をしようとしているのか

「いのちの声に聴く」ということはとても大切なことです。人生において、大変なことが起こり「一体何が問われているのか？」「そこにメッセージが込められていないか」を振り返るとき、こじつけて考えるのではなく、自分の心に問うとすつと聞こえてくるようにわかることがあります。それがいのちの声に聴くということ。パーカー・パーマーという牧師もされていた作家の言葉に「人生で何をするつもりなのかを自分のいのちに告げるまえに、いのちがあなたと一緒に何をしようとしているのかを聴きなさい」とあります。この言葉には時代の変化の本質を感じます。かつては「自分が何をしたいのか」を明確にし、目標を定め、今の自分とその目標とのギャップを埋めるべく一歩ずつ階段を上ってゆくのが、これまでの生き方でした。つまり主語が「私」です。しかし「いのちが何をしようとしているのか」となると「いのち」が主語です。起こってくる様々な問題のすべては、この「いのちの声に聴く」ことから紐解けるのではないかと。いのちを主語にすることでこれまでと違う新たな生き方が立ち上がってくるのではないのでしょうか。

■無意識内容の意識化

「エンパワメント」とは、私たちの内側に眠っている力を呼び覚ますことを指します。そのためのポイントはまず「問いかけ」。良い問いかけは気づきに繋がります。次に「行

動する」、思っているだけではなく一歩踏み出すこと。三つめは、その行動は意気揚々としていなくてもよい、「めんどくさそう」でよいということ。つまり自信がないままでよいので踏み出すことです。自信がついてから行動する、となれば、結局行動する日は来ないのです。

人はよく何か起こったときに「あの時の大変さと較べたら今はまだ」などと言います。それは単に比較しているというのではなく、過去に体験した大変な出来事において、そこで自分の力とつながることができたという記憶です。だから今日もその力を出すことができ、ことに気づけます。外に求める助けとは違い、内側からわき出すものは生涯支えとなるのです。だからこそ、人ができる最大のことは「自分の力」と出合つてゆくことです。人の中には間違いないその力があるのに、心の奥深く眠った状態になっている。そしてその力が発揮されるのを阻む要因が常に心の中にはあります。心のエネルギーをボトルに入っている水に例え、ボトルの首(ボトルネック)がワインの瓶のように細ければ、いくら水がたくさんあったとしてもその口から出る量は細く少なくなります。赤ん坊の時は何があっても屈託なく笑ってエネルギーいっぱいだったのに、人は成長し大人になれば難しい顔となってしまうのは、ボトルネック(阻害要因)でエネルギーを止めてしまうからです。自分の内側を意識化する力が必要となります。心理学者のユングは、ボトルネックに何があるかを「原型」と名付け、「眠っている力」も「ブロックしているもの」も同時に存在していると提唱しました。「必要なのは無意識内容の意識化」とし、自分の中で何が起きているのか気づく大切さを伝えています。

■内なる力を呼び覚ます

映画『思い出のマーニー』は少女の心の成長を描いています。心に傷を抱えたアンナは、海辺の村の洋館で出会ったマーニーに心を開きなんでも話せる友だちになります。「話せる」ということはボトルネックが流れ出していることを示します。しかしある嵐の夜、マーニーに置き去りにされたアンナの感情は乱れます。河合俊雄先生(父・隼雄)は、このマーニーの裏切りがあったからこそアンナの心の傷は克服されたと解説されています。その後アンナはマーニーを許しますが、アンナの成長がうかがえる場面でもあります。人生においていろんなことがあり、人は抑え込んで生きています。それがボトルネックとなり流れを阻害します。その流れを作るためにはまず一つは、感じていることを「話すこと」。そしてもう一つは、ポジティブな体験だけでは人は救われないことを知ることです。

起承転結の「起」は問いを持つこと。この今起こってしまったことの意味は何か？そしてそこから一歩踏み出せるかどうか。心の声は常に勇気ある一歩を要求してきます。「承転」は、自分の中の眠っている力を呼び覚ますためのプロセスのこと。内なる力としっかりと繋がることです。「結」は、新たな他者との結びつきです。自分が内なる力と繋がることで、だれかに問いかけや気づきをもたらす、その人のエンパワーに繋がっていきます。

「起」から「結」へと一直線に行くことはできません。その途中に阻害要因があるからです。起承転結を体験した人にはエンパワーする他者との結びつきが生まれます。この「起承転結」のプロセスを踏んで内なる力を呼び覚ますことができたなら、その力は尽きることなく生涯自分の支えとなり、誰かの力を呼び覚ます存在ともなるのです。

(抄録 中川千都子)

「石田梅岩魂に満ち満ちた
全宇宙の变革者に」
清水 正博 先生
(四月度特別講義②より)



■寺田一清先生との出会いも石田梅岩から

人間学塾中之島の前身である天分塾の顧問であられた寺田一清先生との出会いは、私の一生を左右する出会いでした。森信三先生の言葉に「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。」「縁は求めざるには生ぜず。内に求める心なくんば、たとえその人の面前にありとも、ついに縁は生ずるに到らずと知るべし。」とありますが、寺田先生が石田梅岩の本を書かれたと聞いて、岸城読書会に駆け付けた、その行動がなければ、私は今ここに立つておらず、単なる石田梅岩好きで終わってしまったのではないかと思えます。寺田先生、森先生に導かれて今日の私があるのです。

■石田梅岩はダイヤモンド

石田梅岩は何者か、を語るにはいくら時間があっても足りないのですが、私はダイヤモンドだと思っています。どこから見ても光っている。懐が深い。神道、儒教、仏教、すべての宗教は人を幸せにするものだから、全て取り入れていこうじゃないかと言われている。今の時代であれば、イスラムもキリストも素晴らしい教えじゃないかとおっしゃると思います。見る視点によって違うがすべて受け入れて下さる。そして、その目指すところは、一時ではなく「永続的に」栄えることなのです。

■石田梅岩を知るとは、石田梅岩を行うこと

「知る」だけではなく「行う」ことができて初めて知ったと言えるということです。「石田先生事蹟」に詳しく書かれています。梅岩先生は、「夏は日陰を人に譲り、冬は日あたりを人に譲る」、「峠の茶屋に入る時は、みずばらしい方に入り、

お金は余分に置いてくる」などを実践された人です。鍵山秀三郎先生はタクシーに乗られたらおつりは受け取らず、運転手の方に気持ちよく働いて頂き、次に乗車する人にも明るい気持ちになつて頂く、というようなことをされているそうで、「鍵山先生こそ現代の石田梅岩先生である」と、寺田先生も本に書かれています。

■吉田松陰先生と石田梅岩先生

吉田松陰の言葉に「志を立てて以て万事の源と為す」というのがあります。志が何よりも大事だということですね。そして「交わりを拓びて以て仁義の行を輔(たす)く」「書を読み以て聖賢の訓えを稽(かんが)う」、この三つの言葉を私も大切にしたいと思っています。吉田松陰、石田梅岩共に「知行合一」(知ることと行う事は一緒である)を説いた人です。そして、吉田松陰は妹に心学を薦めるといふような手紙を書いています。

■執行草舟先生と石田梅岩先生

執行草舟先生の本を読むと、石田梅岩のことがたくさん書かれています。例えば「悲願へ」という松下幸之助のことを書いた本では「松下幸之助は大阪で栄えた、日本の伝統的な商人の中から出てきた人なので、持っていた理想は、学問的には石田梅岩の創始した石門心学から出ていると思うのです。そしてその石門心学を底辺で支えている、日本の庶民の憧れとして持っていた武士道的精神の中から生まれて来たのではないかと思いたったのです」「石門心学から受けた生き方が、ほとんど松下幸之助の精神の一番大きな部分を占めています」「石門心学は武士道から出た正道でもありますから、実は生まじめな人がやると、まるで逆効果になってしまうのです」と書かれています。石門心学が武士道だと言っているのは、執行草舟先生と私だけです。石田梅岩の先祖は江戸時代に活躍した武士で、武士の子孫ですから、梅岩先生にも武士の血が流れていると思っています。

また、執行先生は「人間のもつ運命ほど、面白いものはこの世にはない。それは大宇宙を包含している。」と書かれています。石田梅岩先生も、

「天地」という言葉を使い「天地を包含する」というように語っていて、これもお二人の共通するところだと思います。

■石田梅岩の本質

『都鄙問答』にて「性が善であれば、世の中は皆善人で、悪人はいない筈です。しかし悪人も多くいるので、性善説は成り立たないと疑う人がたくさんいます。このことから、性善説を理解できる人は少数です。どうしてかというところ、これは善、こちらは悪と、善悪を相对比较して見るために、聖人(この場合は孟子)の心を見失って、大きな誤りとなるわけです。」と、性善説の善は悪に対する善ではないと説いています。

また、『齊家論』では「天が人々をこの世に与えられたわけですから、全ての民は天の子です。従って人は「一箇の小天地」と言えます。小天地ですから、本来、私欲などありません。このため、自分の物は自分の物、貸した物は受取り、借りた物は返す。ほんのわずかな私心もなくし、本来あるべき様に実践するのが正直というものです。この正直が行われれば、世間一同が相和し、世界中、皆兄弟のような関係になります。私の願いは、人々がここに至るように為すことです。」と書かれています。『都鄙問答』に書かず、梅岩先生が亡くなる年に発刊された『齊家論』に書かれていることから、晩年、その境地に至ったものと思われる。

・講義の中で、横田南嶺管長が石田梅岩と清水先生のことを語っておられる、管長侍者日記を聴きました。こちらのリンクとQRコードも二日分、掲載させていただきますので、是非ご覧下さい。
2023.12.17 (<https://www.engakuji.or.jp/blog/37090/>)
2023.12.18 (<https://www.engakuji.or.jp/blog/37094/>)



(抄録 野依佐千子)

グループ討議

一日目 岩田 洋治 先生

◆ Aグループ

・良い問いと出合う（この出来事の意味）

・起承転結の承と転

・いのちの声に耳をすませて自己変容

◆ Bグループ

・起承転結の承と転

・いのちの声に聴く

・エネルギーのボトルネック

◆ Cグループ

・話すということが行動の第一歩

・エンパワー研究のすばらしさ

・様々な経験がボトルネックとなる

◆ Dグループ

・フタに気づいて行動する

・ポジティブだけでは人間は変わらない

・一番やりにくいことにチャレンジ

グループ討議

二日目 清水 正博 顧問

◆ Aグループ

・知行合一

・全てに正直であることが世界平和に

・善とは相対的に見るものではない

◆ Bグループ

・知行合一

・性善説の善は悪との比較ではない

・宇宙の応援を感じ取る

◆ Cグループ

・心学は奥深くダイヤのごとく光っている

・心学は著名人に影響を与えている

・心学はすべてにつながる

◆ Dグループ

・宇宙には言葉がないから感じ取るしかない

・つながりの広さ、影響力

・人欲を捨てれば良いことだらけ



会場前 集合写真



御室桜前 集合写真



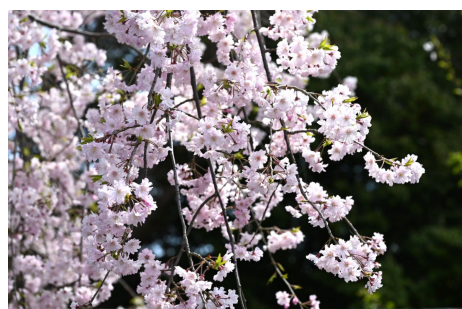
講義風景



懇親会 集合写真



懇親会 集合写真



満開の御室桜



散策風景

寺田一清先生に導かれて 近藤宏枝 ⑩

「さんしゅゆの花が咲いて」

私が市川英俊先生と初めてお出合いしたのは「天分塾」から「人間学塾・中之島」と改名して歩み始めた、平成二十五年三月の宿泊研修の地、京都・関西セミナーハウスに講師としてお迎えした日で、森信三先生が愛したさんしゅゆの花が咲き誇っていました。

私はその日の総合司会のお役を頂いていたので、少し早めに会場に到着したのですが、寺田一清先生が市川先生をご紹介下さいました。後に市川先生は、この時のご登壇は寺田先生の「厳命」だったと言われました。

先生は昭和五十一年の教員四年目に「実践人の家・夏季研修会」で初めて森信三先生にお出合いして「人生二度なし」「腰骨を立てる」の教えに浴されました。昭和五十九年には歴史ある「東京読書会」を立ち上げられていて、各地の読書会で学ぶ私達にとっては、雲の上の大先輩であります。また先生は教員十年目に内観法の創始者・吉本伊信先生よりご指導を仰がれています。そして先生は「立腰と内観」、この二つを教育の根幹に置かれ、子供達を長年指導して来られたのでした。

私はこの研修会のお出合いから、ハガキ交流のご縁を頂いて十年が過ぎました。ある時先生が「郵便番号は必ず、別に丁寧に書くように」とご指導下さったことがあります。住所印はしっかりと押したつもりでも、特に郵便番号は見えにくくなる場合があります。小さなハガキの中に、多くの気付きがあるのです。もちろんその日から、郵便番号を別に書き添えるようになったのは言うまでもありません。

人間学塾・中之島 執行草舟チャンネルで大公開！



3月16日の執行草舟先生のご講演のダイジェストが「執行草舟チャンネル」で公開されています。皆様、是非ご覧ください。皆様の様子もバッチリ映ってますよ！

<https://www.youtube.com/watch?v=GPIn86AEgxM>



← QRコードからもアクセスできます！

当日の早朝の様子から新幹線、そして中之島への移動から、人間学塾・中之島でのご講演、質疑応答そして、懇親会の様子や先生のご感想もご覧になれます。

是非、いいね！とチャンネル登録をどうぞ

編集後記

仁和寺御室会館の宿泊研修はいかがでしたか。

ご登壇予定の石川真理子先生は急病のため、急遽、清水正博顧問の登壇となりました。急にも関わらず、清水顧問、素晴らしい講演ありがとうございました。仁和寺の御室桜もちょうど見頃の時期に開催でき素晴らしいものとなりました。編集長 西村俊幸

人間学塾・中之島編集部メールアドレス

2012nakanoshima@gmail.com

中之島ニュースは塾生の皆様のためのものです。無断で転載・配布・SNS利用などとはご遠慮ください。

入塾・説明会を開催します。
友人・知人を是非お誘いください



天命追及型の生き方」
埼玉県出身。慶應義塾大学卒。
日本航空の客室乗務員へ。
大病後、自らも天命追求型の生き方を追及。ことほぎ代表。

「古事記が教えてくれる」
○日時 6月8日(土) 13時～
○場所 大阪大学中之島センター 10階
○講師 白駒 妃登美 先生
○テーマ

《人間学塾・中之島》次月日程